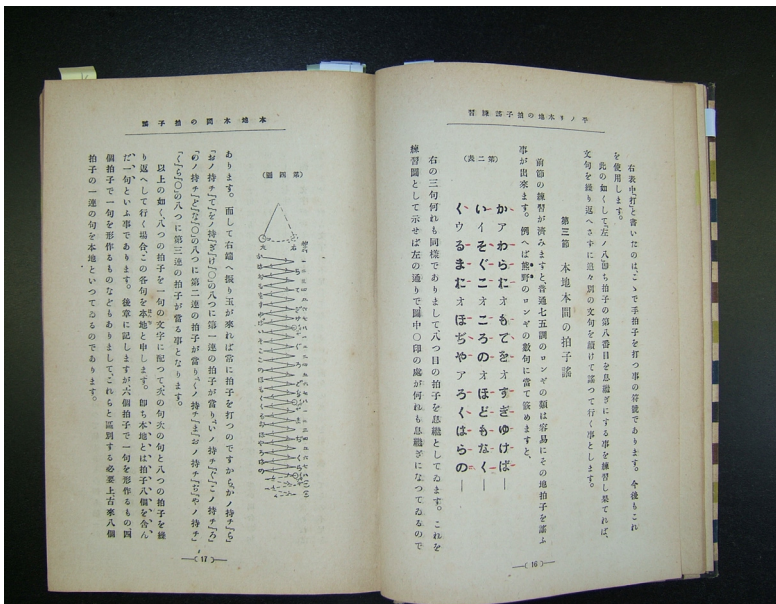
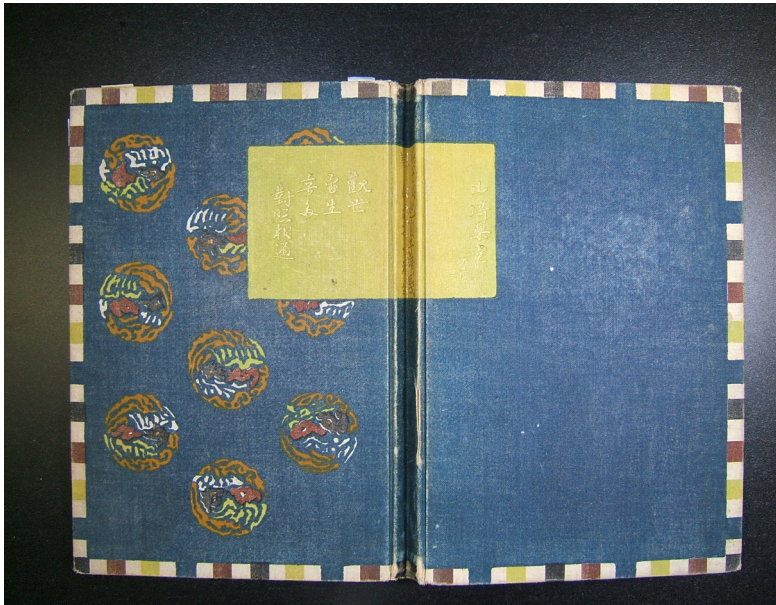


山崎楽堂 『独習用 謡曲 地拍子精義』

山崎楽堂は建築専攻の工学士である。多くの版を重ねた名著の初版本である。タイトルが示すとおり、本書は、地拍子を「独習」するための本である。写真下に示したのは、著者が工夫した地拍子独習のための装置である。振り子を使って、その振動に合わせて左右の手を動かす、仮名を唱えることを、謡の練習を始めるまえに徹底的に練習するのである。このような方法は、伝統的な地拍子の学習方法とまったく異なる、工学士らしい新案工夫であろう。



標題 内題…独習用 謡曲 地拍子精義

標題紙…観世・宝生・喜多 対照相通 独

習用 謡曲 地拍子精義

奥 附…

その他…観世・宝生・喜多 対照相通 独

習用 謡曲 地拍子精義 (表紙

から背にかけて)

著者 奥 附…山崎静太郎

その他の場所…工学士 山崎楽堂 (標題

紙)、山崎楽堂 (表紙)

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…わんや江島謡曲書肆

出版年…大正4 (1915)

その他の場所…序 大正4 (1915)

形態 冊数…一冊 頁数…三四二頁

寸法…22×15 (cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 付録「謡曲拍子組織一覽表」。